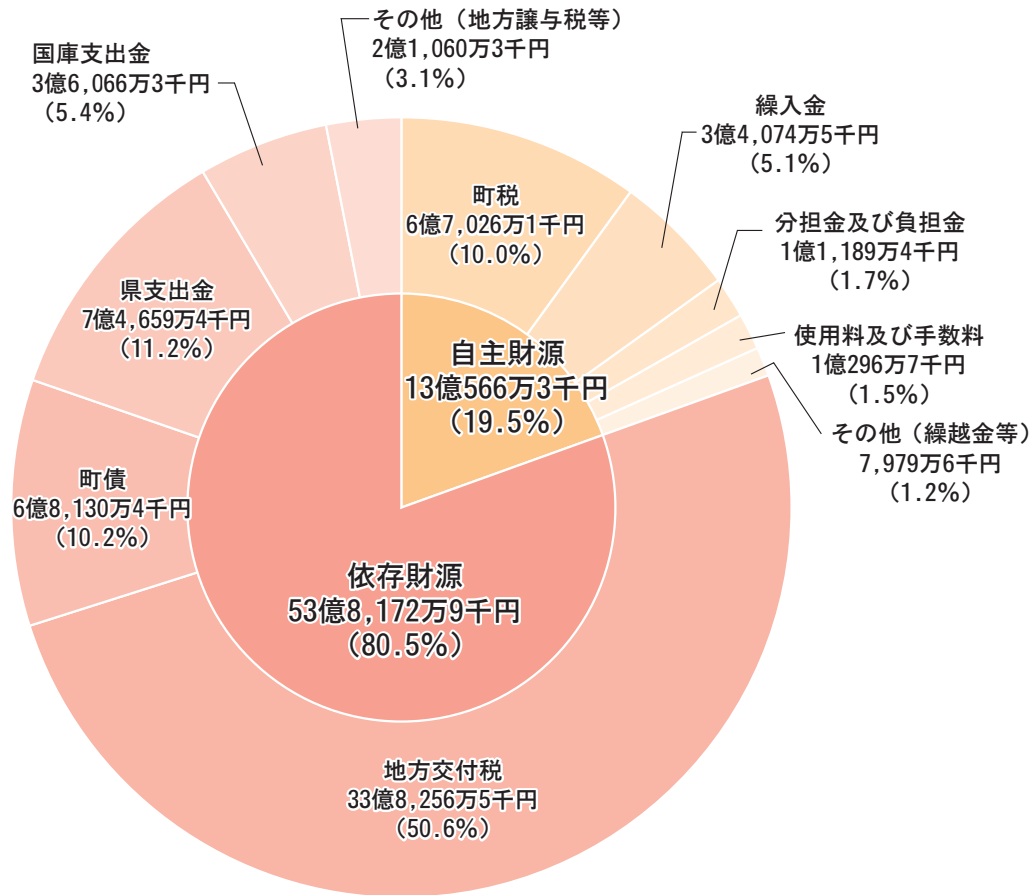


一般会計歳入

66億8,739万2千円

「あふれる自然、こころゆたかな町」の実現にむけて 平成19年度当初予算決定



平成19年度予算概要

平成19年度当初予算が3月定例議会において可決されました。一般会計予算と特別会計予算を合計した予算総額は、112億9,856万6千円で平成18年度と比較すると9億6,784万3千円(9・4%)の増額となりました。

町民の皆さんに深く関わりのある一般会計予算は、66億8,739万2千円で平成18年度と比較すると、7億8,488万円(13・3%)の増額となっております。

単純に町の人口で割ると、町民一人当たり約66万7千円が使われることとなります。

平成19年度当初予算は、平成18年3月に策定した総合振興計画を指針とし、新町建設計画及び過疎地域自立促進計画を羅針盤と位置づけ編成されました。

また、平成17年度に策定した行政改革大綱の提言を考慮し、来るべき少子高齢化社会に対応するため、事業の緊急性などについても考慮しました。

今後、地方交付税などの減少により更に歳入の減少が予想されますが、健全財政を構築してまいります。

一般会計の歳入

本町の財源は、80・5%を依存財源に頼っています。中でも、自治体の財政力の格差を調整するために交付される地方交付税が一番多く、33億8,256万5千円で、全体の50・6%を占めています。

自主財源は、町税や使用料及び手数料などです。歳入全体に占める割合は、19・5%となっており、自主財源で一番多いのは、町税の6億7,026万1千円(10・0%)となっております。町税の内訳は、町民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税などです。

一般会計の歳出

歳出で一番多いのは、公債費(町で借り入れたお金を返済するための費用)の、14億6,369万4千円で歳出全体に占める割合は21・9%となっております。次に多いのが民生費の、13億4,685万5千円で、老人福祉や児童福祉などの事業に使われます。また、第1次産業の振興に使われる農林水産業費は、6億9,015万8千円で歳出全体に占める割合は10・3%となっております。